

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	駒沢女子大学
設置者名	学校法人駒澤学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
共創文化学部	国際日本学科		4	16	5	25	13	
	人間関係学科		4		8	28	13	
	心理学科		4		10	30	13	
空間デザイン 学部	空間デザイン学科 インテリアデザインコース		2	12	10	24	13	
	空間デザイン学科 建築デザインコース		2		8	22	13	
観光文化学部 (2025年度以降入学)	観光文化学科		4	24	6	34	13	
観光文化学部 (2023年度以降入学)	観光文化学科		4	28	55	87	13	
観光文化学部 (2022年度入学)	観光文化学科		4	28	53	85	13	
観光文化学部 (2021年度以前入学)	観光文化学科		4	28	53	85	13	
人間総合学群 (2023年度以降入学)	人間文化学類 日本文化専攻		4	28	50	82	13	
	人間文化学類 人間関係専攻				59	91	13	
	人間文化学類 英語コミュニケーション専攻				30	62	13	
	心理学類				59	91	13	
	住空間デザイン学類 インテリアデザインコース				60	92	13	
	住空間デザイン学類 建築デザインコース				54	86	13	

人間総合学群 (2022 年度入学)	人間文化学類 日本文化専攻		4	28	74	106	13	
	人間文化学類 人間関係専攻				57	89	13	
	人間文化学類 英語コミュニケーション専攻				58	90	13	
	心理学類				63	95	13	
	住空間デザイン学類 インテリアデザインコース				62	94	13	
	住空間デザイン学類 建築デザインコース				62	94	13	
人間総合学群 (2021 年度以前入学)	人間文化学類 日本文化専攻		4	28	74	106	13	
	人間文化学類 人間関係専攻				57	89	13	
	人間文化学類 英語コミュニケーション専攻				58	90	13	
	心理学類				63	95	13	
	住空間デザイン学類 インテリアデザインコース				62	94	13	
	住空間デザイン学類 建築デザインコース				62	94	13	
人間健康学部 (2025 年度以降入学)	健康栄養学科		6	2	6	14	13	
人間健康学部 (2024 年度以前入学)	健康栄養学科		6	2	57	65	13	
看護学部 (2022 年度以降入学)	看護学科		3	1	97	101	13	
看護学部 (2021 年度以前入学)	看護学科		0	0	25	25	13	
(備考) ・ 共創文化学部 2025 年度開設 (2024 年度設置届出) ・ 空間デザイン学部 2025 年度開設 (2024 年度設置届出) ・ 観光文化学部 2025 年 4 月に名称変更 ・ 人間総合学群 2018 年度開設 (2017 年度設置届出) 2022 年度入学者よりカリキュラム変更 2023 年度入学者より住空間デザイン学類のみカリキュラム変更 2025 年度募集停止 ・ 人間健康学部 2025 年度入学者よりカリキュラム変更 ・ 看護学部 2018 年度開設 (2017 年度設置認可) 2022 年度入学者よりカリキュラム変更								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.komajo.ac.jp/uni/kouhyou/kouhyou2_2.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	駒沢女子大学
設置者名	学校法人駒澤学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.komajo.ac.jp/data/index.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	大本山永平寺監院	2025年5月28日～ 3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	大本山永平寺別院長谷寺監院	2025年5月28日～ 3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	清巖寺住職	2025年5月28日～ 3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	清見寺住職	2025年5月28日～ 3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	稲城市シルバー人材センター事務局長	2025年5月28日～ 3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	駒沢女子大学
設置者名	学校法人駒澤学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
● <u>授業計画(シラバス)記載項目</u>： ①科目分類(実務教員が担当する授業はここに(J)が付される)、②授業コード、③科目名称、④単位数、⑤英文名称、⑥授業区分、⑦科目責任者、⑧必修・選択、⑨担当教員、⑩開講時期、⑪オフィスアワー、⑫研究室、⑬授業概要、⑭到達目標、⑮アクティブ・ラーニング型授業、⑯メディア科目、⑰授業回数、⑱複数教員の場合の授業形態、⑲各回の授業内容と課題学習(予習・復習)、⑳授業開始前学習、㉑授業内課題のフィードバック方法、㉒テキスト・教材、㉓参考書、㉔評価の基準と方法(具体的な評価方法及び配分基準等)、㉕ディプロマ・ポリシー、㉖学修指針(学修指針と科目との関連度合いを◎○△で表示)、㉗関連科目、㉘その他、㉙予習・復習の所要時間、㉚実務経験を活かした教育内容 ● <u>授業計画の作成過程</u>： ①担当教員(複数教員担当の場合は代表者)が案を作成する(年末～年初)。②各学類・学科の教務担当教員が内容の適否を審査する。③不適の場合、再度担当教員に書き直しを依頼する。④年度始め(4月)に公表する。 ● <u>授業計画の公表方法について</u>： 大学ホームページ上で公表している(本学の特長▶教育情報の公表▶2. 修学上の情報等(2) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画▶授業の方法及び内容並びに年間のシラバス)。	
授業計画書の公表方法	https://www.komajo.ac.jp/uni/kouhyou/kouhyou2_2.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
● <u>単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施：</u> 本学は、全学ディプロマ・ポリシーおよび各学類（専攻）・学科のディプロマ・ポリシーを設定したうえで、8つの学修指針（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）にもとづき、学類（専攻）・学科の学修内容に沿った学修到達度確認表を作成している。担当教員は、各科目にあらかじめ設定されている学修指針及び学修到達度をもとに、当該科目の評価基準を定め（シラバスに記載）、それをもとに成績評価を実施し単位を与えている。成績評価の方法は、試験、レポート、授業内で行われる確認テスト等、科目や担当者により異なる。 ● <u>学修成果の厳格かつ適正な評価の実施：</u> 本学は、駒沢女子大学アセスメント・ポリシーを策定している。そこに「全学D Pに掲げる能力（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）の到達目標を測るために、学生は、学修到達度確認表等を用い自己評価を行い、また、担当教員は学生の自己評価結果を確認」することを掲げている。これにより、教員、学生双方が学修状況を把握する体制を整えている。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
● <u>G P A等の客観的な指標の具体的な内容：</u> 本学は、5段階成績評価による科目の成績を以下のように数値化している。①秀＝90～100点（Grade Point 4）、②優＝80～89点（Grade Point 3）、③良＝70～79点（Grade Point 2）、④可＝60～69点（Grade Point 1）、⑤不可＝59～0点（Grade Point 0）、定期試験欠席（Grade Point 0）、出席不足（Grade Point 0）。これらは、履修ガイドで公表している。計算式は、以下の通りである。 $GPA = \frac{(4 \times \text{秀の修得単位数} + 3 \times \text{優の修得単位数} + 2 \times \text{良の修得単位数} + 1 \times \text{可の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数（不可の単位数を含む）}}$ ● <u>客観的な指標の適切な実施状況：</u> 本学は、原則として、全授業においてG P 平均値が2.0に近づくような成績評価の実施を求め、厳格な実施をうながすための方策として、教員には前年度担当科目のG P A結果を通知し、G P 平均値が2.0より著しく逸脱している場合は、注意をうながすことで成績の客観性、平等性を確保している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/study-guide.html 【履修ガイド】共創文化学部・観光文化学部・空間デザイン学部・人間健康学部・看護学部 P19～20 参照 【履修ガイド】人間総合学群 P27～28 参照 ※人間総合学群については、2025年度より募集停止しておりホームページへの履修ガイドの掲出は行っていない。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

● 卒業の認定に関する方針の具体的な内容：

本学は、教育の理念（知性と理性を備えた心豊かな女性の育成）に基づき、以下のような資質・能力の養成を教育目標として掲げ、これに基づき編成された4年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件としている。

- ・ 自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成
- ・ 自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成
- ・ 社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成
- ・ 文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成

● 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況：

学群・学類・専攻、学部・学科（学位単位）のカリキュラム・ポリシーで定められた評価方法、及び学修到達度確認表を使い、教育目標に掲げる資質・能力の養成が達成されているか否かを判定するとともに、学則で定められた卒業要件を満たしているか否かを教授会で確認している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	駒沢女子大学
設置者名	学校法人駒澤学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.komajo.ac.jp/data/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.komajo.ac.jp/data/index.html
財産目録	https://www.komajo.ac.jp/data/index.html
事業報告書	https://www.komajo.ac.jp/data/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.komajo.ac.jp/data/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 2025年度 行動計画 対象年度: 2025年度)
公表方法: https://www.komajo.ac.jp/data/torikumi.html
中長期計画(名称: 学校法人駒澤学園中長期計画 対象年度: 2013~2027年度)
公表方法: https://www.komajo.ac.jp/data/torikumi.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/characteristic/ninshohyoka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/characteristic/ninshohyoka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 共創文化学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html) (概要) 共創文化学部の教育の目的は、道元禅師の「禅」の精神に根ざしたディプロマ・ポリシー、そして〈 Society 5.0 (内閣府) 〉が描く社会モデルを意識したキャリア・ポリシーを教育課程の核とし、専門的な職業知識と技能をはじめ、本学学則第 1 条に定める「十分に自己を実現し、新しい文化の 創造的 担い手となる人間性豊かな現代女性」に求められる諸能力、すなわち主体的な問題解決能力、論理的かつ創造的な思考力、丁寧な傾聴力、そして現代を共に力強く生き抜いていくために自己の学びと他者への眼差しを継続的に振り返り、アップデートできる自己省察力を習得させることを目指すものである。このような共創文化学部の教育目的のもと、「国際日本学科」「人間関係学科」「心理学科」の 3 学科では 学生が自ら主体的に学び、次の教育の目的を目指すものである。 国際日本学科 日本人が培ってきた文化を尊重しつつ多様な価値観を受容できる心豊かな人間性に加えて、現代日本社会の特質を認識し国際的な視点から国内外の諸問題を的確に考察・分析し、理性的に判断する能力、日本文化を創造的に継承していく担い手としてのコミュニケーション能力、および自らの力を社会で活用し成果を得るために粘り強く自己実現に励む実践力を習得させることを目標とする。 人間関係学科 人間関係と社会における多様性を理解し、異なる社会・文化的背景をもつ他者とコミュニケーションを図り、変化する社会のなかで自身のキャリアを主体的に形成する能力を習得させることを目標とする。 心理学科 人のこころに関する広汎な教養と深い洞察力、他者とともに社会を創り上げるために必要なコミュニケーション能力、情報化・多様化した現代において心理学に関する学識を活用できる思考力、様々な情報を判断・吟味できる情報分析力、知見を他者と共有できるプレゼンテーション能力、そして、心理学の専門的知見と専門的技術を通して人とのかかわる主体性と実践力を習得させることを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy.html) (概要) 共創文化学部は、建学の精神である「行学一如」、すなわち行動と知識の一体性、実践と理論の相即性を基盤とし、自ら専心できる問題を探求して知識と技能を修得する一方、現代社会の多様な価値観を俯瞰しつつ他者の考えを共感的に理解し、共により良い未来を切り開いていこうとする協調性と実行力を備えた現代女性の養成を目的としている。 共創文化学部はその目的を達成するために、国際日本学科、人間関係学科、心理学科を置いている。 駒沢女子大学共創文化学部は、教育の目的に則して編成された 4 年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件とします。 共創文化学部では、その目的を達成するために、共創文化学部は、以下の資質・能力を養成することを教育目標としている。

1. 幅広い教養と禅の教えに基づく人間性の養成
2. 他人に共感理解するコミュニケーション力と自立した思考力の養成
3. 専門性に応じた深い知識を持ち、活用する能力の養成
4. 主体的、複眼的に考えることによって、創造的な思考・姿勢の養成

国際日本学科

国際日本学科は、日本の文化全般に関する知識を有した上で、国際的な日本文化への関心の高まりを踏まえて国際的な視野から日本文化を捉え直し、その理解を国内外に発信できるコミュニケーション能力を備え、グローバルな時代の変化に対応しつつ現代日本社会に貢献していく資質を有する人材の養成を目的としている。

国際日本学科は、全学ディプロマ・ポリシー及び学部ディプロマ・ポリシーにおいて求める内容を含め、以下にあげる能力・資質を身につけ、学士課程を通じて所定の課程を修め、124単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与する。

1. 国際日本に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成
2. 国内外に発信できるコミュニケーション力と、社会性の養成
3. 国際日本に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成
4. 国際日本の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成

人間関係学科

人間関係学科は、全学ディプロマ・ポリシー及び学部ディプロマ・ポリシーにおいて求める内容を含め、以下にあげる能力・資質を身につけ、学士課程を通じて所定の課程を修め、124単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与する。

1. 人間を取り巻く社会・文化・心理についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成
2. それらの基礎的な教養と知識を、多角的な視点で変化する社会を捉え、他者を理解・尊重し、他者と共生するための思考力の養成
3. 人間の社会・文化・心理に関する専門的な知識を修得し、人間社会の多様なあり方を理解し、多様な他者と協働できる実践力の養成
4. 人間関係と人間を取り巻く社会・文化・心理についての課題を発見し、それを解決するための問題解決能力の養成

心理学科

心理学科は、全学ディプロマ・ポリシー及び学部ディプロマ・ポリシーにおいて求める内容を含め、以下にあげる能力・資質を身につけ、学士課程を通じて所定の課程を修め、124単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与する。

1. 人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成
2. 人と人との織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に迫及する自己実現力の養成
3. 人間の心理に関する専門的な知見を活かしつつ、様々な情報を統合して分析することで、自律的に判断できる思考力の養成
4. 心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力、情報分析力、及び実践力の養成

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html>)

(概要) 駒沢女子大学共創文化学部は、「教養科目」と「専門科目」の枠を設け、全学ディプロマ・ポリシーで掲げている 4 つの教育目標を達成するために必要なカリキュラムと教育方法を用意している。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は以下のように定めています。 学部学科共通教育内容 1. 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。 2. 1 年次から 2 年次までの 2 年間を通じて、学科の教育目標のうち主に 1 と 2 を達成するための基礎力を育成する必修科目を設けています。 3. 3 年次から 4 年次までの 2 年間を通じて、学科の教育目標のうち主に 3 と 4 を達成するための専門力を育成する選択科目を設けています。 教育方法 1. 主体性・創造性・思考力を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。 2. 1 年次から 4 年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、知識を活用する力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。 3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れ、共により良い未来を切り開いていこうとする協調性と実行力を高める教育を行います。 評価方法 1. 外部機関等が主催する資格検定試験を用いて学修効果を高めます。 2. 2 年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。 3. 4 年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html)
(概要) 共創文化学部では次のような学生を求めます。 1. 高等学校等の教育課程を通じて、本学部での教育を修めるために必要となる基礎的な知識・技能等を身につけている人 2. 高等学校等の教育課程を通じて、各学科が教育目的として掲げる幅広い教養と専門的な知識・技能等を修得するための学習習慣を身につけている人 3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人 4. 多様な人々と協働して主体的に学ぼうとする姿勢と社会に貢献したいという意欲をもつ人 国際日本学科 国際日本学科では、次のような学生を求めます。 1. 人間の文化、歴史、社会に関する基礎的な知識（たとえば高等学校等までの国語、外国語、地理歴史、公民などの学習内容）を身につけている人 2. 自らが関心をもつ分野（日本の文化や海外の文化など）に関する知識・技術等を修得しようという意欲をもち、学習する習慣を身につけている人 3. 自らが関心をもつ分野を学ぶ上で必要となる基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人 4. 多様な他者と共生する社会の中で主体的・積極的に学び続け、国際日本に関する学修を生かして社会に貢献しようという意欲をもつ人

人間関係学科

人間関係学科では、次のような学生を求めます。

1. 広く「人間」「文化」「社会」について興味を持ち、自分自身の視野を広げるために主体的に学ぶ意欲をもつ人
2. 多様な他者と共生する社会のなかで、自分の思いや意見を伝え、他者を尊重し理解しようとする姿勢を備えている人
3. 人間関係に関する学修を生かして、社会に貢献しようとする意欲をもつ人
4. 大学での学びに必要な基礎的な日本語運用能力とコミュニケーション能力を身につけている人

心理学科

心理学科では、次のような学生を求めます。

1. 人の心理や行動の多様性とその探求に興味をもつ人
2. 心理学の専門的知識と方法論を学ぶ意欲をもつ人
3. 他者と交流し、多くの人とともに協働的に活動する姿勢をもつ人
4. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
5. 人の心理に興味があり、社会と人間について基本的な知識（高等学校等の国語、外国語（英語）、公民（現代社会）、情報、保健体育、芸術 美術・音楽）などの教科に関連する知識）を身につけている人

学部等名 観光文化学部

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html>）

（概要）

観光文化学部観光文化学科は、国際人としての教養、観光の専門家となるための知識と技能を習得し、国際的な交流及び協力に貢献できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy.html>）

（概要）

観光文化学部観光文化学科

観光文化学部観光文化学科は、国際人としての教養、観光の専門家となるための知識と技能を習得し、国際的な交流及び協力に貢献できる人材の育成を目的としています。その目的を達成するために、観光文化学類は、専門教育科目を通して以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

1. 観光・文化に関する学際的な教養と、多様な文化や価値観を受容することができる豊かな人間性の養成
2. 社会人にふさわしいコミュニケーション力と、目標達成に向けて他者と良好な関係を築きながら活動できる社会性の養成
3. 地域や社会の抱える課題に貢献できる専門性と、観光・文化に関する様々な問題に対する判断力の養成
4. 多様な文化の発展に寄与できる創造性に富む技術力と、着想を計画的に実行できる実践力の養成

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html>）

(概要) 駒沢女子大学観光文化学部観光文化学科は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います 教育内容 1. 自ら考え、発信し、行動する力の育成を目標にカリキュラムを作成しています。 2. 1年次には基礎力と教養を育成するための科目に加えて、国家試験対策科目を設けています。 3. 2年次から4年次までの3年間を通して、専門力を育成する必修科目・選択科目を設けています。 教育方法 1. 主体性を育成するために講義科目にアクティブラーニングを取り入れています。 2. 実践力を育成するために多様なインターンシップ科目、国内および海外旅行研修を設けています。 3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。 評価方法 1. 外部機関等が主催するさまざまな資格試験・検定試験を用いて、学力レベルを客観的に把握し、学習モチベーションを高めます。 2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。 3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学習成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html) (概要) 観光文化学科では、次のような学生を求めます。 1. 高等学校等の国語・外国語・地理歴史・公民などの教科に関心があり、日本と世界の文化・歴史・社会に関する基礎的な知識を身につけている人 2. 観光・文化に関心があり、幅広い知識・教養・実践力を身につける意欲をもつ人 3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人 4. 多様な価値観を受け入れ、他者と協働して社会に貢献する意欲をもつ人
学部等名 空間デザイン学部 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html) (概要) 空間デザイン学部の教育の目的は、人間の諸活動と建築・インテリアを中心とする空間デザインにかかわる基礎的な素養を身につけさせ、自己実現と社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力、人間のくらしや環境を向上させる担い手となるための技術力と実践力を総合的に習得させる向上させることとする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy.html) (概要) 空間デザイン学部空間デザイン学科は、建築・インテリアを中心とした空間デザインを学修することにより、人が暮らしやすい社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としている。 その目的を達成するために、空間デザイン学部空間デザイン学科は、以下の資質・能力を

養成することを教育目標としている。 1. 建築・インテリアデザインから家具、陶芸、テキスタイル等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成（教養力・人間性） 2. 建築・インテリアデザインの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成（コミュニケーション力・社会性） 3. 建築・インテリアデザインの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成（専門力・判断力） 4. 建築・インテリアデザインを実現するための多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成（技術力・実践力）
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html） （概要） 駒沢女子大学空間デザイン学部空間デザイン学科はディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は以下のように定めています。 教育内容 1. 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。 2. 1年次から2年次までの2年間を通じて、学科の教育目標のうち主に1と2を達成するための基礎力を育成する必修科目を設けています。 3. 3年次から4年次までの2年間を通じて、学科の教育目標のうち主に3と4を達成するための専門力を育成する選択科目を設けています。 教育方法 1. 3年次に、インテリアデザインコース、建築デザインコースに分かれて専門教育を深めていきます。 2. 主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。 3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。 評価方法 1. 外部機関等が主催する資格検定試験やデザインコンペティション等を用いて学修効果を高めます。 2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。 3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html） （概要） 空間デザイン学部空間デザイン学科では、教養科目の学修を通して人間に対する理解を深め、人間の諸活動に関わる基礎的、総合的な教養力を身につけるとともに、建築とインテリアデザインを中心とする空間デザインの教育を基盤として、社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力、文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を備えた、人間性豊かな人材を養成します。以上のような養成する人材像と教育課程を踏まえて、以下のような人が入学することを求めます。 空間デザイン学部空間デザイン学科では次のような学生を求めます。 1. 建築、インテリアのデザインやものづくりなどについて関心をもつ人 2. よりよい社会とくらしの環境の創造に貢献したいという意識をもつ人 3. 幅広い興味を持って物事に取り組む人 4. 主体的に学習を継続できる人 5. 基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人 6. 他者と協働し、責任をもって行動できる人他者と協働し、責任をもって行動できる人

7. 目標に向かって努力する姿勢を備えている人目標に向かって努力する姿勢を備えている人
8. 建築、インテリアを通して社会人として活躍したいという意欲をもつ人建築、インテリアを通して社会人として活躍したいという意欲をもつ人

学部等名 人間総合学群
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html)
(概要) 人間総合学群は、人間諸科学の知と手法を基礎として、幅の広い教養及び実践的な技能を教授し、自分の力で考え判断できる能力を具えた、人間性豊かな女性を養成することを目的としています。 人間文化学類 人間文化学類は、文化や社会に対する理解と、実践的なコミュニケーション能力の双方を身に付けることで、グローバルな時代の変化に対応でき、現代社会に参加し貢献していく資質を有する人材の育成を目的としています。 心理学類 心理学類は、心理学の専門的知識及び技能を学修し、現代社会の多様化する心の問題に主体的に取り組み、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。 住空間デザイン学類 住空間デザイン学類は、生活空間の演出を学修することにより、人が暮らしやすい社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy.html)
(概要) 【人間文化学類】 人間文化学類は、文化や社会に対する理解と、実践的なコミュニケーション能力の双方を身につけることで、グローバルな時代の変化に対応でき、現代社会に参加し貢献していく資質を有する人材の育成を目的としています。 その目的を達成するために、人間文化学類は、コミュニケーション能力、社会的責務を果たすための判断力・実践力、社会で通用する専門力、社会で活躍するための技術力、といった生きるための基盤となる力を、教育課程全体を通して育成するとともに、日本文化専攻、人間関係専攻、英語コミュニケーション専攻の3専攻を置き、各専攻の専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。 《日本文化専攻》 日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成 社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成 日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成 日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成 《人間関係専攻》 人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成 他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成 人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる

適応力の養成

社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題の解決に向けて自ら行動する実践力の養成

《英語コミュニケーション専攻》

世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成

社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成

世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成

世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成

【心理学類】

心理学類は、心理学の専門的知識及び技能を学修し、現代社会の多様化する心の問題に主体的に取り組み、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

その目的を達成するために、心理学類は、専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成

人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成

人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成

心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成

【住空間デザイン学類】

住空間デザイン学類は、生活空間の演出を学修することにより、人が暮らしやすい社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としています。

その目的を達成するために、住空間デザイン学類は、専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成

住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成

住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成

住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html>）

（概要）

駒沢女子大学人間総合学群は、「教養教育科目」と「専門教育科目」の枠を設け、全学ディプロマ・ポリシーで掲げている 4 つの教育目標を達成するために必要なカリキュラムと教育方法を用意しています。

【人間文化学類】

人間文化学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のような

カリキュラム編成と授業を行います。

教育内容

自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。

1年次に、各専攻への進路選択に資するための基礎的な科目を設けています。

2年次から4年次までの3年間を通じて、各専攻の専門力を育成する選択科目を設けています。

教育方法

2年進級時に、日本文化専攻・人間関係専攻・英語コミュニケーション専攻に分かれ、専門教育を深めていきます。

主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。

専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

評価方法

外部機関等が主催する資格検定試験を用いて学修効果を高めます。

2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

【心理学類】

心理学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー・心理学類カリキュラムマップ）。

教育内容

自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。

1年次には基礎力と教養を育成するための科目に加えて、専門教育科目の一部を置いています。

2年次から4年次までの3年間を通して、専門力を育成する必修科目・選択科目を設けています。

教育方法

主体性・創造性・思考力を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行ないます。

豊富な実験・実習科目によって講義で学んだ知識を確認し、また、技術を修得します。

専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

評価方法

外部機関等が主催する資格検定試験を用いて学修効果を高めます。

2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

【住空間デザイン学類】

住空間デザイン学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー・住空間デザイン学類カリキュラムマップ）。

教育内容 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。 1年次から2年次までの2年間を通じて、学類の教育目標のうち主に1と2を達成するための基礎力を育成する必修科目を設けています。 3年次から4年次までの2年間を通じて、学類の教育目標のうち主に3と4を達成するための専門力を育成する選択科目を設けています。 教育方法 3年次に、インテリアデザインコース、建築デザインコースに分かれて専門教育を深めていきます。 主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。 評価方法 外部機関等が主催する資格検定試験やデザインコンペティション等を用いて学修効果を高めます。 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。 4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html) (概要) 1. 高等学校等の教育課程を通じて、本学群での教育を修めるために必要となる基礎的な知識・技能等を身につけている人 2. 高等学校等の教育課程を通じて、各学類・専攻が教育目的として掲げる幅広い教養と専門的な知識・技能等を修得するための学習習慣を身につけている人 3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人 4. 多様な人々と協働して主体的に学ぼうとする姿勢と社会に貢献したいという意欲をもつ人

学部等名 人間健康学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html) (概要) 人間健康学部は、幅広い視点から専門的知識及び技能を教授することにより、質の高い健康生活の実現と、生涯にわたる健康な生活への援助ができる人材を養成することを目的とする。 健康栄養学科 健康栄養学科は、豊かな人間性を備えた栄養の専門家を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy_humanities.html) (概要) 駒沢女子大学人間健康学部は、幅広い視点から専門的知識及び技能を教授することにより、質の高い健康生活の実現と、生涯にわたる健康な生活への援助ができる人材を育成することを目的としています(学則第4条の3の(7))。 人間健康学部はその目的を達成するために、健康栄養学科を置いています。

駒沢女子大学人間健康学部は、教育の目的に則して編成された 4 年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件とします。 健康栄養学科 健康栄養学科は、豊かな人間性を備えた栄養の専門家を育成することを目的としています。その目的を達成するために、健康栄養学科は、専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html) (概要) 人間健康学部 駒沢女子大学人間健康学部は、教養教育科目と専門教育科目の枠を設け、全学ディプロマ・ポリシーで掲げている 4 つの教育目標を達成するために必要なカリキュラムと教育方法を用意しています（人間健康学部カリキュラムツリー・人間健康学部教養教育科目カリキュラムマップ・学修到達度確認表）。 健康栄養学科 健康栄養学科は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（健康栄養学科専門教育科目カリキュラムマップ）。 教育内容 栄養士・管理栄養士としての社会的責務を果たすことができるようにカリキュラムを作成しています。 社会人に求められる幅広い教養とコミュニケーション力を養うために、教養教育科目を設けています。 栄養士・管理栄養士に必要とされる専門的な知識及び技術を修得するために専門基礎科目と専門科目を設けています。 教育方法 豊富な実験・実習科目によって講義で学んだ知識を確認し、また、技術を修得します。 学外の施設で行う臨地実習によって、応用力や実践力を養います。 総合演習によって専門科目間の連携を図り、体系的な知識の修得を実現します。 評価方法 2 年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。 4 年次の総合演習で複数回行う筆記試験によって、専門基礎科目および専門科目の学習効果を高めます。 4 年終了時に、卒業にふさわしい学習成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html)

(概要) 次のような学生を求めている。 1. 栄養士・管理栄養士の業務を理解し、社会貢献の意欲をもつ人 2. 栄養士・管理栄養士に求められる専門的な知識や技術を積極的に修得しようとする、強い学習意欲をもつ人 3. 協調性をもって、実験・実習等のグループワークに主体的かつ積極的に取り組むことができる人 4. 管理栄養士免許の取得を目指して、地道な努力が続けられる人

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/mission.html ）
(概要) 看護学部看護学科 看護学部看護学科は、人間性豊かな質の高い看護実践能力を備えた看護実践者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/diploma-policy_humanities.html ）
(概要) 看護学部看護学科は、人間性豊かな質の高い看護実践能力を備えた看護実践者を育成することを目的としています。 その目的を達成するために、看護学部看護学科は、以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。 人間を全人的に捉え、ヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 チームの連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成 教育の目的・教育目標に即して編成された4年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得し、以下を有している者に学位を授与します。 豊かな人間性と幅広く深い教養、高い倫理観 社会性とコミュニケーションに基づいた人間関係の構築力 科学的・創造的な看護実践力 多職種と連携・協働する能力 看護専門職としての自己研鑽力 看護学の発展に寄与する課題探究力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/curriculum-policy.html ）
(概要) 看護学部・看護学科 駒沢女子大学看護学部看護学科は、教育目標を達成するために、以下のカリキュラム構成としています（看護学部カリキュラムツリー・看護学部教養教育科目カリキュラムマップ・看護学部専門基礎科目・専門科目カリキュラムマップ・学修到達度確認表）。 教育内容 カリキュラムの構成は、学士力のある看護専門職を育成するため、科目区分を「教養教育

科目」「専門基礎科目」「専門科目」とし、それぞれの科目区分においては、さらに以下のような細区分を行っています。各科目は、学修の順序性を考慮して配置しています。尚、選抜選択制として保健師教育課程を設定しています。

「教養教育科目」においては、豊かな人間性、幅広く深い教養、高い倫理観、社会性、コミュニケーション力を身につけることができる科目、自己成長や課題発見につながる科目で構成し、細区分は「人間の理解」「社会の理解」「言語と文化の理解」「情報と科学の理解」としています。「人間の理解」では、建学の精神について理解する仏教学をはじめとした人間の理解に関する科目、「社会の理解」では、社会的存在としての人間の理解に関する科目、「言語と文化の理解」では、思考の言語化・他者とのコミュニケーション・外国語を通して異文化を知る科目、「情報と科学の理解」では、数理的な思考と ICT の理解、情報の活用に関する科目を配置しています。

「専門基礎科目」においては、科学的・創造的な看護実践を行う上で必要となる医療に関連する基礎的知識を修得できる科目で構成し、細区分は「健康と医療」「健康の支援」としています。「健康と医療」では、健康の理解（正常な人体の理解）と健康障害の理解（疾病のある人体の理解）に関する科目、「健康の支援」では、健康を支援するさいに必要な心理・社会・教育的な側面の理解に関する科目を配置しています。

「専門科目」においては、看護実践に必要な知識・技術を修得できる科目で構成し、細区分は「看護の基礎」「看護の実践」「公衆衛生看護」「看護の統合」としています。「看護の基礎」では、看護実践の基盤に関する科目、「看護の実践」では、対象のニーズに応じた看護実践に関する科目、「公衆衛生看護」では、健康な地域づくりに関する科目、「看護の統合」では、安全な医療の提供に関する科目や多職種との連携に関する科目、自己成長や課題探究・課題解決に必要な知識・技術に関する科目を配置しています。

教育方法

看護学の理論と実践を系統的に学ぶことにより、看護実践力の強化を図ります。

豊富な実習・実技科目によって講義で学んだ知識についてポートフォリオを用いながら確認するとともに、学外施設で行う臨地実習によって応用力や実践力を養います。

現代社会に必要な技術と環境への対処能力をアクティブラーニングにより習得し、リベラルアーツ力を高め、生涯にわたり自己研鑽する方法論を身に付けます。

評価方法

2 年次終了時に、学修到達度確認表に基づいて教員・学生による 8 つの能力（教養力、人間性、コミュニケーション力、社会性、専門力、判断力、技術力、実践力）を 4 つの水準で評価します。

2 年次終了時に、必修科目の単位修得の状況を確認し、看護専門職に求められる基礎学力を評価します。※

3 年次前期に、各看護学領域の演習科目において、看護の実践に必要な専門力、判断力、技術力について学修到達度を評価します。

4 年次の履修科目すべての終了時に、学修到達度確認表に基づいて教員・学生による 8 つの能力（教養力、人間性、コミュニケーション力、社会性、専門力、判断力、技術力、実践力）を 4 つの水準で評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/admission-policy.html>）

（概要）

次のような学生を求めている。

1. 建学の精神に共感できる人
2. 看護に強い関心を持ち、看護職として貢献する意思をもっている人
3. 人間と社会に関心がある人

4. 何事にもチャレンジする探求心をもっている人
5. 他者とコミュニケーションのとれる人
6. 他者と協力し、責任をもって行動できる人
7. 主体的に学習を継続できる人
8. 看護学を学ぶために必要な基礎学力のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/pdf/organization.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1・3 人	－					4 人
人間総合学群	－	21 人	7 人	9 人	1 人	0 人	38 人
共創文化学部	－	3 人	3 人	1 人	0 人	0 人	7 人
観光文化学部	－	6 人	1 人	2 人	0 人	0 人	9 人
空間デザイン学部	－	2 人	1 人	0 人	0 人	0 人	3 人
人間健康学部	－	10 人	1 人	4 人	1 人	6 人	22 人
看護学部	－	9 人	7 人	11 人	6 人	0 人	33 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		241 人					241 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ https://www.komajo.ac.jp/uni/kouhyou/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
共創文化学部	200人	121人	60.5%	200人	121人	60.5%	0人	0人
観光文化学部	60人	46人	76.7%	260人	165人	63.5%	10人	3人
空間デザイン学部	70人	87人	124.3%	70人	87人	124.3%	0人	0人
人間総合学群	0人	0人	0%	970人	657人	67.7%	20人	10人
人間健康学部	80人	41人	51.3%	320人	249人	77.8%	0人	0人
看護学部	80人	71人	88.8%	320人	311人	97.2%	0人	0人
合計	490人	366人	74.7%	2,140人	1,590人	74.3%	30人	13人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (100%)
人間総合学群	314人 (100%)	7人 (2.2%)	283人 (90.1%)	24人 (7.6%)
人間健康学部	69人 (100%)	0人 (0.0%)	65人 (94.2%)	4人 (5.8%)
看護学部	63人 (100%)	2人 (3.2%)	61人 (96.8%)	0人 (0.0%)
合計	447人 (100%)	9人 (2.0%)	409人 (91.5%)	29人 (6.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：駒澤大学大学院・駒沢女子大学大学院・桐朋学園大学大学院・名古屋大学大学院・日本赤十字看護大学大学院 就職先：(株) J R東日本ステーションサービス・(株) 横浜グランドインターコンチネンタルホテル・(株) 伊東園ホテルズ・三井ホーム(株)・横浜旭中央総合病院・慶應義塾大学病院など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人間総合学群	343人 (100%)	283人 (82.5%)	25人 (7.3%)	35人 (10.2%)	0人 (0%)
人間健康学部	71人 (100%)	67人 (94.4%)	2人 (2.8%)	2人 (2.8%)	0人 (0%)
看護学部	68人 (100%)	61人 (89.7%)	5人 (7.4%)	2人 (2.9%)	0人 (0%)
合計	482人 (100%)	411人 (85.3%)	32人 (6.6%)	39人 (8.1%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
本学の授業科目は、学群、各学部で呼び名は異なるものの、基本的に教養科目と専門科目の2群で構成される。科目には必修、選択必修、選択の区別がある。それらは、前期または後期のみで終了する半期科目が大多数を占めるが、前期及び後期を通して行われる通年科目、ある時期集中して行う集中講義科目もある。 授業には、講義、演習、実習、実験、実技の区分がある。 年間履修単位の上限は、共創文化学部、観光文化学部、空間デザイン学部、人間総合学群、人間健康学部が46単位以下、看護学部が48単位以下である。このなかには、教職課程、学芸員課程等に設けられた卒業単位として認められていない科目の単位数も含まれる。

授業は、授業計画（シラバス）に基づき実施される。授業計画には、①科目分類（実務教員が担当する授業はここに（J）が付される）、②授業コード、③科目名称、④単位数、⑤英文名称、⑥授業区分、⑦科目責任者、⑧必修・選択、⑨担当教員、⑩開講時期、⑪オフィスアワー、⑫研究室、⑬授業概要、⑭到達目標、⑮アクティブ・ラーニング型授業、⑯メディア科目、⑰授業回数、⑱複数教員の場合の授業形態、⑲各回の授業内容と課題学習（予習・復習）、⑳授業開始前学習、㉑授業内課題のフィードバック方法、㉒テキスト・教材、㉓参考書、㉔評価の基準と方法（具体的な評価方法及び配分基準等）、㉕ディプロマ・ポリシー、㉖学修指針（学修指針と科目との関連度合いを◎○△で表示）、㉗関連科目、㉘その他、㉙予習・復習の所要時間、㉚実務経験を活かした教育内容、以上の30項目が記されている。

授業計画（シラバス）は、①担当教員（複数教員担当の場合は代表者）が案を作成する（年末～年始）、②各学類・学科の教務担当教員が内容の適否を審査する、③不適の場合、再度担当教員に書き直しを依頼する、④年度初め（4月）に公表する、といった過程を経ている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

本学は、全学ディプロマ・ポリシー、各学類（専攻）・学科のディプロマ・ポリシーを設定したうえで、8つの学修指針（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）にもとづき、学類（専攻）・学科の学修内容に沿った学修到達度確認表を作成している。担当教員は、各科目にあらかじめ設定されている学修指針及び学修到達度をもとに、当該科目の評価基準を定め（シラバスに記載）、それをもとに成績評価を実施し単位を与えている。成績評価の方法は、試験、レポート、授業内で行われる確認テスト等、科目や担当者により異なる。

また、全学ディプロマ・ポリシーに掲げる能力（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）の到達目標を測るために、学生は学修到達度確認表等を用い自己評価を行い、また、担当教員は学生の自己評価結果を確認することで、教員、学生双方が学修状況を把握する体制を整えている。

成績評価の具体的な指標としてはGPAを用いる。GPAは、5段階成績評価による科目の成績を以下のように数値化し、計算式に基づき科目1単位あたりの平均点を求めたものである。

- ①秀＝90～100点（Grade Point 4）
- ②優＝80～89点（Grade Point 3）
- ③良＝70～79点（Grade Point 2）
- ④可＝60～69点（Grade Point 1）
- ⑤不可＝59～0点（Grade Point 0）
- ⑥定期試験欠席（Grade Point 0）、出席不足（Grade Point 0）

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{秀の修得単位数} + 3 \times \text{優の修得単位数} + 2 \times \text{良の修得単位数} + 1 \times \text{可の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数（不可の単位数を含む）}}$$

本学は、原則として、全授業においてGP平均値が2.0に近づくような成績評価の実施を求め、厳格な実施をうながすための方策として、教員には前年度担当科目のGPA結果を通知し、GP平均値が2.0より著しく逸脱している場合は、注意をうながすことで成績の客観性、平等性を確保している。

卒業（学位授与）は、①ディプロマ・ポリシーに基づき編成された4年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得していること、②4年以上在学していること、③所定の学費を完納していることを学則で定めている。

卒業要件の認定にあたっては、学群・学類・専攻、学部・学科（学位単位）のカリキュラ

ム・ポリシーで定められた評価方法、及び学修到達度確認表を使い、教育目標に掲げる資質・能力の養成が達成されているか否かを判定するとともに、学則で定められた卒業要件を満たしているか否かを教授会で確認している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
共創文化学部	国際日本学科	124 単位	㊦・無	46 単位
	人間関係学科	124 単位	㊦・無	46 単位
	心理学科	124 単位	㊦・無	46 単位
観光文化学部	観光文化学科	124 単位	㊦・無	46 単位
空間デザイン学部	空間デザイン学科	124 単位	㊦・無	46 単位
人間総合学群	人間文化学類 日本文化専攻	124 単位	㊦・無	46 単位
	人間文化学類 人間関係専攻	124 単位	㊦・無	46 単位
	人間文化学類 英語コミュニケーション専攻	124 単位	㊦・無	46 単位
	心理学類	124 単位	㊦・無	46 単位
	住空間デザイン学類	124 単位	㊦・無	46 単位
人間健康学部	健康栄養学科	125 単位 (2024 年度以前入学者 は 124 単位)	㊦・無	46 単位
看護学部	看護学科	126 単位 (2021 年度以前入学者 は 128 単位)	㊦・無	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.komajo.ac.jp/uni/guidance/study-guide.html 【履修ガイド】共創文化学部・観光文化学部・空間デザイン学部・人間健康学部・看護学部 P19～20 参照 【履修ガイド】人間総合学群 P27～28 参照 ※人間総合学群については、2025 年度より募集停止しており ホームページへの履修ガイドの掲出は行っていない。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/campusmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間総合 学群	人間文化学類	800,000 円	—	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	心理学類	800,000 円	—	266,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 66,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	住空間デザイン 学類	800,000 円	—	266,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 66,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
共創文化 学部	国際日本学科	800,000 円	300,000 円	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	人間関係学科	800,000 円	300,000 円	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	心理学科 (1 年次)	800,000 円	300,000 円	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	心理学科 (2～4 年次)	800,000 円	—	266,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 66,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
観光文化 学部	観光文化学科	800,000 円	300,000 円	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
空間デザ イン学部	空間デザイン 学科 (1 年次)	800,000 円	300,000 円	236,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 36,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	空間デザイン 学科 (2～4 年次)	800,000 円	—	266,000 円	維持費 200,000 円 実験実習費 66,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
人間健康 学部	健康栄養学科	800,000 円	300,000 円	350,000 円	維持費 250,000 円 実験実習費 100,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
看護 学部	看護学科 (1 年次)	1,050,000 円	300,000 円	525,000 円	維持費 300,000 円 実験実習費 225,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	看護学科 (2 年次)	1,050,000 円	—	525,000 円	維持費 300,000 円 実験実習費 225,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)
	看護学科 (3・4 年次)	1,050,000 円	—	600,000 円	維持費 300,000 円 実験実習費 300,000 円 (休学中は維持費のみ徴収)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ● <u>担任制度とスチューデント・プロフィールの導入</u> ： 本学では、担任制度（アドバイザー制度）とスチューデント・プロフィールにより学 生の情報を一元化し、学生一人一人に即した対応ができる体制を整えている（テーラ ーメイド教育の実践）。

● 履修相談： 本学では、各学年の授業開始前オリエンテーション期間に行う履修ガイダンスのほかに、各学期の履修登録期間に、学類・学科ごとに質問専用のメールアドレスを開設し教員が対応している。また、履修指導を行う教員が単位修得状況を客観的かつ正確に把握し、履修指導を効果的に行うことができるよう、各学期・学年ごとに卒業要件の区分ごとの単位修得状況表を作成している。 ● 駒沢女子大学教科書シリーズの刊行： 本学は、担当教員自身が授業計画に沿った内容で教科書を執筆し、履修学生に無償で配付している。全ての授業で行っているわけではないが、現在 60 冊ほどが作成使用されている。 ● 再試験制度： 本学は、特定の科目の定期試験不合格者に対し、学修への意欲・理解度を高めることを目的に、再試験を課す制度を採用している。 ● 学修支援センターの設置： ティーラーメイド教育の一環として、学内に「学修支援センター」を設置し、学生の基礎教養力養成および進路ニーズに対応した学修のサポートを行っている。学修相談を適宜行いながら、各種の資格取得・検定で成果が得られるように対策講座、セミナーを実施している。現在、国語、英語、数学、社会の指導員が在籍し、進路実現のための基礎力養成、TOEIC の点数増加等に力を入れている。	
b. 進路選択に係る支援に関する取組	
(概要) 本学では、大学卒業後の進路を主体的に決定し、そのために必要な能力（就業力）を高めるための授業科目を設定している。さらに進路総合センターを設置し、カリキュラム外での充実した就業支援を行っている。 進路総合センターでは、学生一人ひとりの希望進路に応じた活動の支援を行い、社会人としての自立に向けて成長していくことを後押ししている。各学類学科教員と連携し専門性を踏まえたうえで、学生が自らのポテンシャルを存分にアピールできるよう、基本を重視した自己理解、書類作成、面接対策等の講座を対面やオンラインで実施し、支援の充実を図っている。 学生支援課、学生相談室とも密に情報を共有し、心身の健康等に係るポイントにも適切に対応できるよう努めている。	
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組	
(概要) ＜学生相談室および保健室＞ 学生相談室および保健室は、学生の心身両面にわたる支援を行うため、緊密に連携している。 学生相談室では、学生生活で生じるさまざまな悩みに対応するため、履修、将来、自分の性格や心理的問題、家族や友人との関係、恋愛問題などについて、広く相談を受け付けている。また、健康診断時に全学生を対象としたメンタルヘルスチェックを実施し、心身の健康に不安を持つ学生の早期発見・早期対応に努めている。専任スタッフとして公認心理師・臨床心理士資格を持つカウンセラー3名、受付が配置され、各学科・学類や関連部署の学生相談連絡会議担当者が全面的にバックアップしている。学生相談連絡会議担当者は、相談室の運営・企画に関わるだけでなく、大学生活の各場面において学生のニーズに柔軟に対応し、マネジメント機能を果たしている。受付時間は土日、祝祭日を除く平日の午前9時30分から午後5時30分までである（相談時間は午前10時から午後5時）。学生相談室におけるカウンセリング利用は原則として予約制で、申込は通常、学生相談室カウンターで受け付けている。また、対面での面接形態に加え、学生が自宅からでも相談できるよう、電話やビデオ会議システムによる相談体制も整えている。 保健室は、健康上のあらゆる相談、けがなどの応急処置、健康に関する情報提供を行って	

いる。また、必要な場合には医療機関、その他の機関を紹介し、健康に過ごせる学生生活をサポートしている。看護師 3 名がシフト制で勤務し、平日は 2 名体制で午前 9 時から午後 5 時 50 分、土曜日は 1 名体制で午前 9 時から午後 4 時が開室時間となっている。

両機関とも、学生に対して守秘義務を負うことは当然だが、相談内容によっては、学生の了解を得たうえで、相互に、あるいは各学科・学類や学内部署、学外機関とも連携を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.komajo.ac.jp/uni/kouhyou/index.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103670
学校名 (〇〇大学 等)	駒沢女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人駒澤学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		169人（－）人	162人（－）人	176人（－）人
内 訳	第Ⅰ区分	100人	93人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	43人	44人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				176人（－）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	16人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	16人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。